

11th International workshop on Warm Dense Matter 2023 (WDM2023)

大阪大学 大学院工学研究科
准教授 尾崎 典雅
(2020 年度 国際会議等準備及び開催助成 AF-2020248-V1)

キーワード: Warm Dense Matter, ハイパワーレーザー, X線自由電子レーザー

1. 開催日時

2023 年 6 月 25 日-30 日

2. 開催場所

兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

3. 国際会議報告

Warm Dense Matter が研究対象となる様々な分野から世界第一線の研究者を集め、最新の実験および理論・計算研究の成果を共有し、集中的な議論を行った。これにより WDM 関連研究の意義を再定義するとともに、当該分野の新しい展開の指針などを検討した。科学技術における日本のプレゼンスを示すとともに、新たな共同研究展開や知の循環、人的資源の流動化に繋げることも目標とした。

6/25-30 の日程で、内外のトップレベルの研究者らによる最新の研究成果の発表および議論が行われた。シングルセッション形式で、WDM ダイナミクス、XFEL ポンププローブ、惑星科学応用、物質材料科学応用など、全 11 セッションが設けられた。口頭発表件数は全 44 件であり、このうち 14 件が招待講演であった。別途ポスターセッションが設けられ、18 件の発表があった。若手研究者および学生によるポスター発表には口頭でのショートトークを設けると共に、2 件のベストポスター賞対象者を選出した。最終日には世界有数の第三世代放射光施設 SPring-8 と X線自由電子レーザー施設 SACLA の施設見学を実施した。次

回開催地を決定するためのコミッティーミーティングも会期中に開催した。

ポストコロナの状況で、久しぶりの同分野での対面会議であったが、最終的に例年通りの十分な参加者があった。内外の各分野を代表する研究者が一同に介するだけでなく、同会議の創設者の一人である A. Ng 教授も参加され、特別講演を設けることができた。WDM が関連する各分野からの最新データを若手研究者や博士課程学生と共有でき、当該分野の将来の発展について非常に有意義なものとなった。今回の会議を踏まえて当該分野の広がりや、WDM の深い理解が応用研究の発展には不可欠であることが再認識され、次回の WDM2025 開催予定へと繋げることができた。ポスターセッションでは研究者間の交流が図れ、特に学生にとっては今後の研究において大変よい刺激となった。学術講演だけでなく XFEL 施設見学などでも、科学技術における日本と日本の研究機関のプレゼンスを示すことができた。久しぶりの対面会議で、全期間を通じて多くの研究者から有意義な交流の場であったとの感想を聞くことができた。大盛況のうちに会議の全日程を終えることができた。

謝辞

献身的に支援してくれた国際会議場スタッフおよび学生アルバイトスタッフに感謝いたします。